


# IT Community Impact! ~ 世界を変える新たな潮流

3) 運営をサポートするツール紹介

## エンジニアの未来サミット編

クロスメディア事業部


馮 富久

 技術評論社

Copyright (c) 2008 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.

## アジェンダ

- ・自己紹介
- ・エンジニアの未来サミットについて
- ・使用したツール
- ・イベント開催時の様子
- ・イベントの振り返り(感想)
- ・まとめ

 技術評論社

Copyright (c) 2008 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.

## 自己紹介

本名

馮 富久(ふうん とみひさ)

自己紹介

1975年1月9日生まれ

大学・大学院

1999.4 株式会社技術評論社入社, Software Design編集部配属

2001.4 Software Design副編集長に就任

2004.1 Software Design編集長に就任

2004.9 Web Site Expert創刊, 同編集長を兼務

2008.9 クロスメディア事業部設立, 同部長代理に就任,  
(Software Design編集部から異動)

~ 2008.11 現在に至る

## 株式会社 技術評論社 クロスメディア事業部とは

2008年9月1日に, (株)技術評論社に新しく設立された事業部です.

クロスメディア事業部では, 技術評論社が展開する従来の紙媒体の枠を超えて, gihyo.jpなどのWebサイト, 各種イベント・セミナーといった, さまざまなメディアを活用した企画立案および実施をし, 購読者/ユーザの獲得, それに付随した広告やタイアップなどからの収益を上げていきます.

また, 対法人を意識したビジネスモデルの構築についても積極的に取り組みます.

# エンジニアの未来サミット 開催概要

## 対象者:

- ・これからIT業界を目指す学生
- ・今IT業界に入ってきた若手エンジニア・デザイナー

## パネリスト:

- ・「アルファゲーク」の面々,
- ・今活躍している30代前後のエンジニア(7x, 8x世代)

「3K, 5K」「35歳定年説」など、ネガティブイメージが付いているIT業界における疑問や不安などに対して、パネリストが応えるパネルディスカッションです。

# エンジニアの未来サミット 開催概要

公式タグ: EngineerSummit

日程	9月13日(土)
時間	13:00 ~ 18:30 (第一部, スポンサーセッション, 第二部 の構成)
開催場所	パソナテック セミナールーム 東京都千代田区大手町2-1-1 大手町野村ビル17F
定員	250名
参加費	無料
URL	<a href="http://gihyo.jp/event/2008/engineer">http://gihyo.jp/event/2008/engineer</a>
主催	株式会社技術評論社
協賛	株式会社パソナテック

## エンジニアの未来サミット 第一部パネリスト

第一部は、アルファゲークvs学生の討論形式にて実施しました。

### < アルファゲーク >

小飼弾氏(ディーエイエヌ(有))  
ひがやすを氏((株)電通国際情報サービス)  
よしおかひろたか氏(ミラクル・リナックス(株))  
谷口公一氏((株)ライブドア)  
伊藤直也氏((株)はてな)



### < 学生 >

田村健太郎氏(一橋大学)  
源馬照明氏(名古屋大学大学院)  
益子謙介氏(芝浦工業大学)  
新井貴晴氏(芝浦工業大学)

## エンジニアの未来サミット 第二部パネリスト

第二部は、パネリスト9名、モデレータ1名による  
ディスカッション形式にて実施しました。

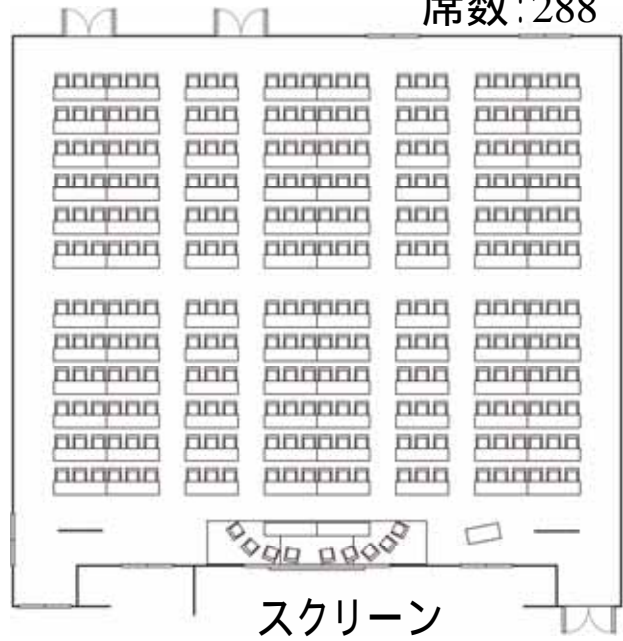
大谷晋平氏((株)電通国際情報サービス)  
庄司嘉織氏(グロースエクスパートナーズ(株))  
高井直人氏(伊藤忠テクノソリューションズ(株))  
古川健介氏((株)ロケットスタート)  
松野徳大氏((株)モバイルファクトリー)  
山田あかね氏(エスカフラーチェLLC)  
湯本堅隆氏((株)アイ・ティ・フロンティア)  
米林正明氏((株)Abby)  
和田修一氏(楽天(株))



# 会場イメージ

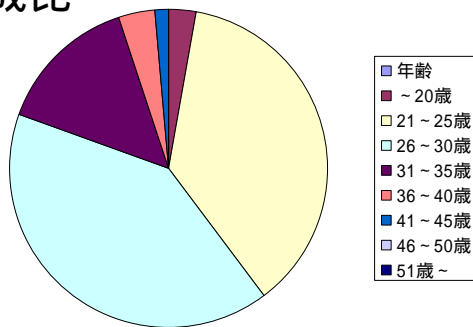


席数:288

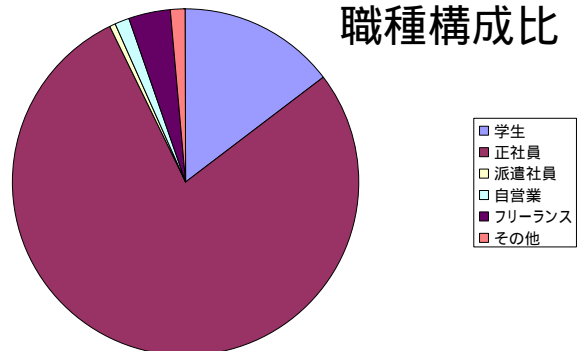


# 来場者属性

年齢構成比



職種構成比



## 使用したツール1 (インターネット中継)

- ・中継用カメラ(汎用デジタルビデオカメラ)
- ・TwinPact 100(分岐エンコーダ)
- ・画面切り替え用PC(4台)
- ・Ustream.tv  
(ネット回線:イーモバイル)
- ・AIRアプリケーション(コメント合成)

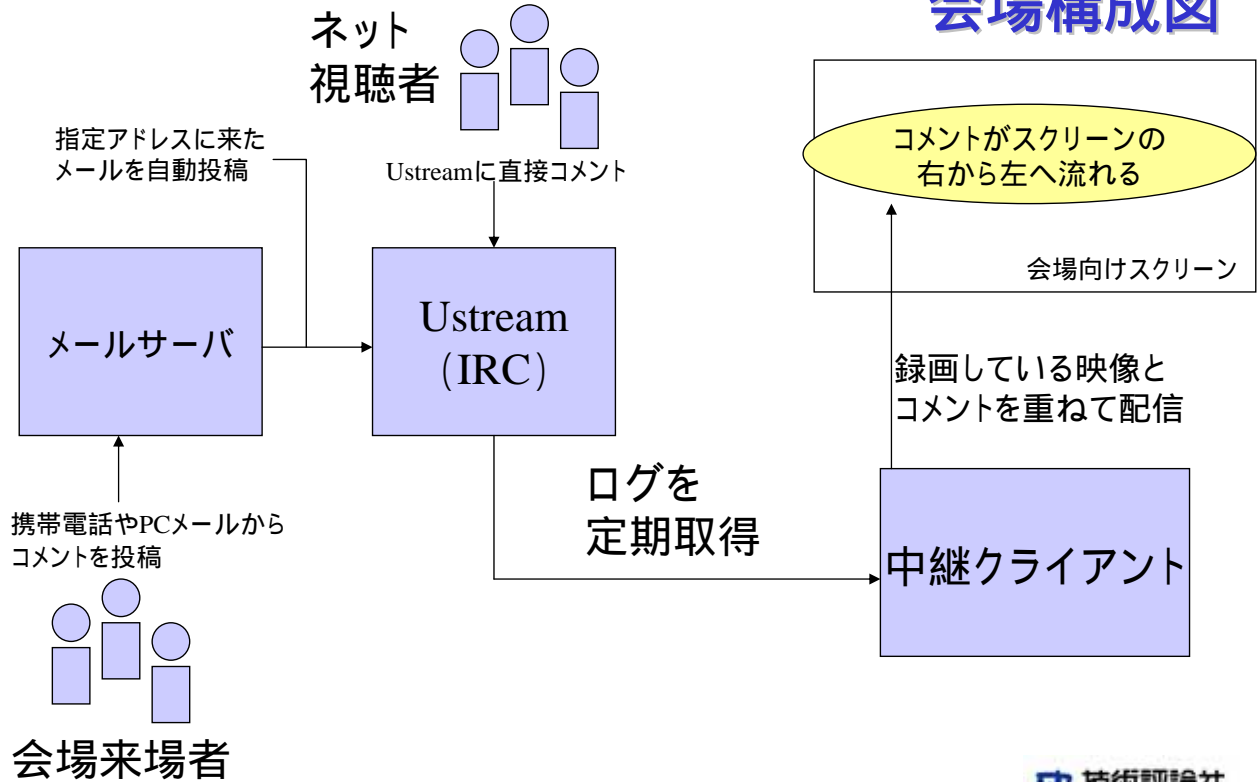
技術協力:cojiさん

cojiさん,ありがとうございました!

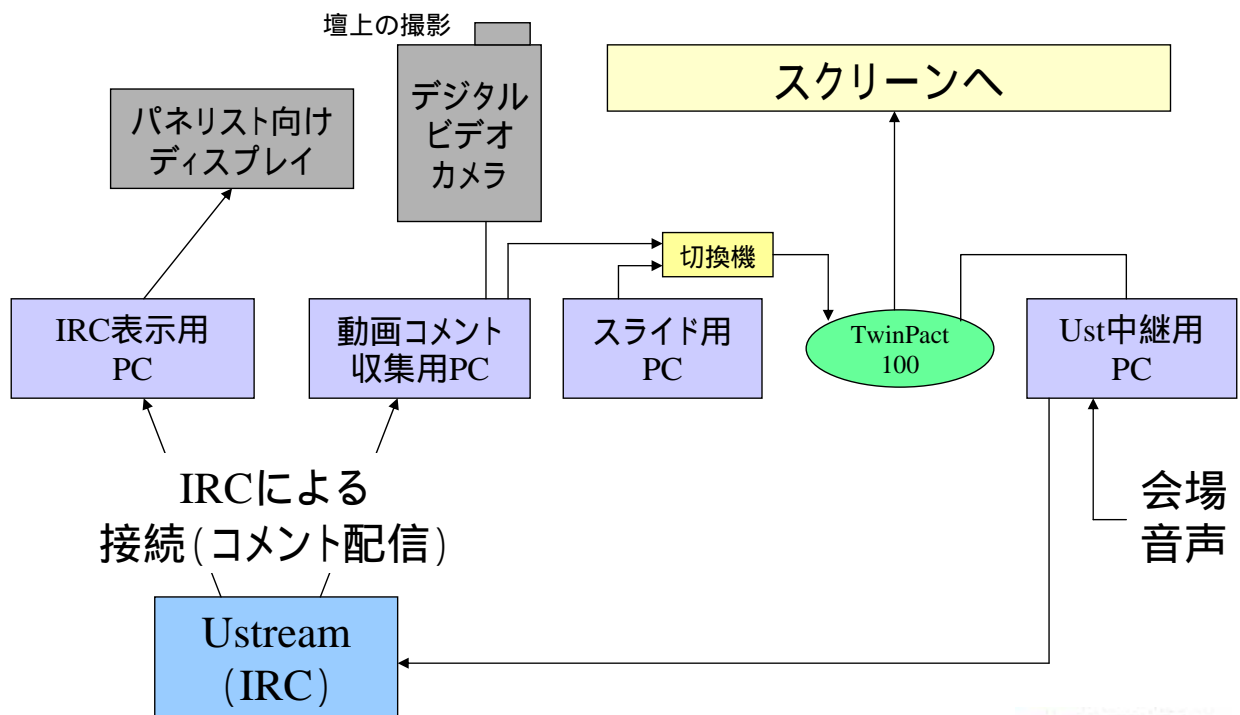
## 使用したツール2 (ホワイトボード)

- ・市販のホワイトボード

# インターネット中継のシステム1 会場構成図



# インターネット中継のシステム2 PC接続イメージ



# インターネット中継のシステム3 アプリケーション

## 使用アプリ

てっく煮ブログを運営されている,  
にとよん (nitoyon) さんのAIRアプリ  
(<http://d.hatena.ne.jp/nitoyon/20070501/p1>) を  
カスタマイズして使用させていただきました。

(カメラからの映像に重ねて表示)

にとよんさん, ありがとうございました!

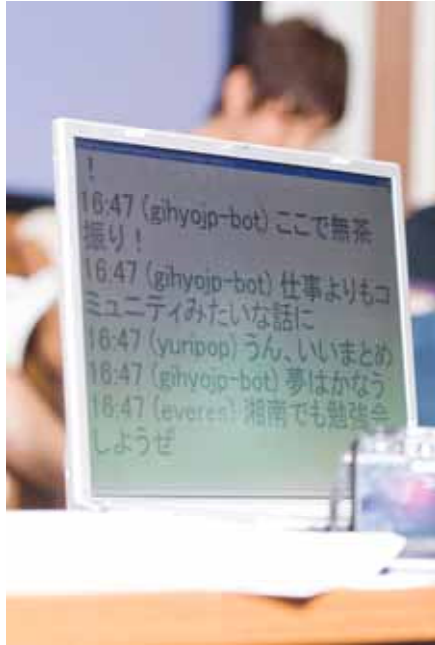
## 使用風景1 (インターネット中継)

スクリーンにコメント内容が  
重なって流れるようにしている。



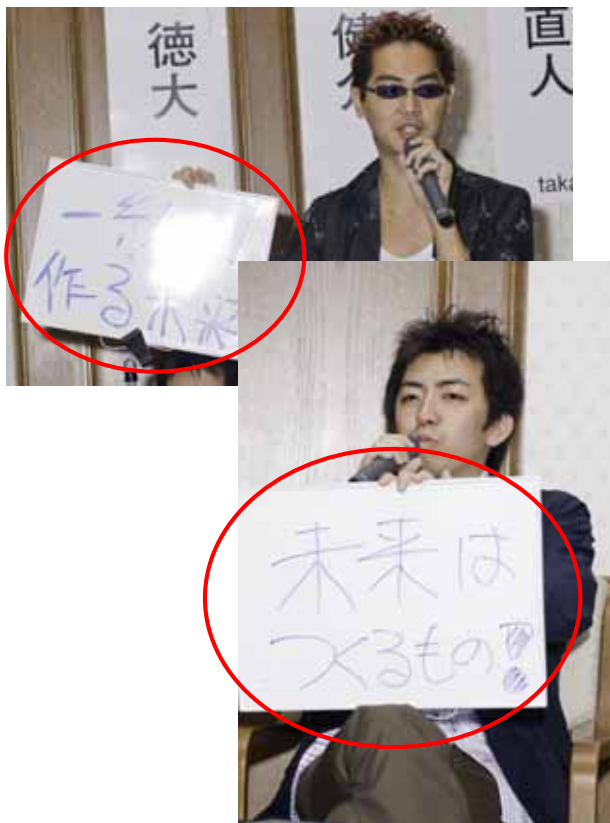


## 使用風景2 (インターネット中継)



これと同じ内容を表示するモニタを、パネリスト向けに用意することで、コメント内容を閲覧できるようにした。

## 使用風景3 ホワイトボード



## ツール使用の感想1 (インターネット中継)

- ・“細かな登録なしで投稿できる”という手軽さにより、  
視聴者(ユーザ)を増やすことができた。
- ・内容を壇上のパネリストに対しても表示したことにより、  
会場を意識した雰囲気作りを実現できた。
- ・一部、内容とは関係ないコメントが流れたことにより、  
ディスカッションの内容が発散した。
- ・コメント者の属性について情報の格差があった。  
(ハンドルネームを知っている/知らない)

## ツール使用の感想2 (ホワイトボード)

- ・当初の目的であった、まとめでの使用に関して、  
各パネリストが言いたいことをきちんと伝えられた。
- ・想定外の使われ方により、  
会話やコメントによるコミュニケーションとは違った、  
コミュニケーションの設計ができた。
- ・ときおりパネリストの遊びが過ぎていた:-)

# イベントを振り返って

- ・インターネット中継をしたことにより、来場できなかった人にも、会場の熱気が伝わったと感じている。
- ・開催後のイベントに対するコメント内容は賛否両論さまざまであったが、アテンションを高めることができた。
- ・コメントにより、パネリスト(とくに学生)の意見促進につながった。
- ・コメントによる参加が見られた一方で、実際の発言による質疑の数は少なかった。
- ・コメント/ホワイトボードともに、使用されたシーンによっては、ディスカッション内容からかけ離れていたことにより、散漫になってしまった部分もあった。
- ・会場規模とツールのバランスについて、見直すべきポイントがあった。

## まとめ

### クロスメディア展開への期待

イベント実施を振り返り、単なる文字情報や静的画像だけではなく、「イベント」「Web動画」「コメント投稿」といった複数の“動的な”要素を絡み合わせたことにより、今回のような結果を得ることができたと感じています。

今後もユーザ参加型クロスメディア展開は、今後ますます活発になり、さらに改善されていくはずです。  
今回のイベントを実施して感じたことは、“人”を感じることができるツールというのは、ものすごく強い力を持っていることです。

技術評論社では、これからも、紙の刊行物を中心に、Webやインターネット、さらにイベントやセミナーを含めた展開について積極的に取り組んでいきます。

**URL : <http://gihyo.jp/>**  
**mail : [tomihisa@gihyo.co.jp](mailto:tomihisa@gihyo.co.jp)**

# Q&A

ご静聴まことにありがとうございました。